

木材等輸出促進方策について（これまでの論点整理）

事 項	内 容
<p>第 1 現状と考え方</p> <p>1 輸出の現状</p>	<p>我が国の木材輸出の現状を見ると、丸太については輸出量は伸びているものの、件数で見た場合、その多くは試験的な輸出にとどまっている。また、木材製品については、製材、単板、PB など多様なものが輸出されているが、金額的には 100 億円程度と木材輸入額（約 1.2 兆円）のわずか 1% にすぎない。</p> <p>一方、世界全体における丸太の輸入量は 1 億 2 千万 m³、製材の輸入量は 1 億 3 千万 m³ といずれも年々増加している。特に、隣国の中国は著しい経済成長に伴い旺盛な木材需要を見せており、過去 10 年間で丸太輸入は 4 倍、製品輸入は 3 倍と急増している。</p>
<p>2 輸出拡大の考え方</p>	<p>我が国の森林のうち、人工林の多くは未だ間伐等の施業が必要な育成段階にあるが、50 年生以上の高齢級の森林が急増しつつあり、こうした森林は、引き続き適切な施業を行うことにより、資源としての本格的な利用が可能となる段階を迎えている。</p> <p>また、京都議定書目標達成計画においては、森林吸収源対策として、木材及び木質バイオマス利用の推進を図ることとしている。</p> <p>一方、我が国の社会を取り巻く情勢等を見ると、人口は減少傾向となり、世帯数も減少するものと予測され、このことは将来の住宅着工動向や木材の需給動向にも影響を与えるものと見込まれる。</p>

事 項	内 容
	<p>このため、国内にあっては、建替需要への対応や内装材への利用促進など、引き続き、国産材の一層の利用拡大に取り組むこととするが、併せて、新たに海外へと国産材の市場を求めることは、国産材の需要全体を底上げする方策として有効であると考えられる。</p> <p>また、木材輸出の拡大は、我が国の林業及び木材産業の活性化はもとより、地域への経済効果も期待され、さらには、これらの産業に携わる人々や森林所有者等に誇りと活力をもたらすものである。加えて、木材の輸出を通じて、国産材の良さへの理解が深まり、国内での消費を促進されるなど、プラスの効果も期待される。</p> <p>中長期的に見た場合には、将来の木材需給は不透明な側面もあることから、早くから市場拡大に向けた取組を行うことは意義があるのではないかと考えられる。</p>
第2 課題	<p>我が国の木材輸出は、初期的な課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出相手国における木材市場情報等様々な情報が不足していること ・ 商慣行（決済方法など）や輸出業務への不慣れや不安感があること ・ 日本産木材の認知度が低いこと <p>の3点が考えられるが、これ以外にも、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出にあたっては、とりわけ加工度の低いものについては、現地において厳しいコスト競争に耐える必要があること ・ 現地に不案内のため、マーケティング調査やニーズ調査が十分に行えないこと ・ 資金回収などのリスクヘッジに不安があること <p>などの輸出に対する不安要因があることが指摘されている。</p>

事 項	内 容
	<p data-bbox="714 360 1397 395">課題・問題点については、上記の諸点で十分か。</p> <p data-bbox="678 448 2018 572">個々の課題や要因について、具体的事例等を交えて、さらに踏み込んで分析してみてもどうか。また、木材以外の輸出において、同様の課題等としてどのようなものがあり、それにどう対処してきたのか把握できないか。</p>
<p data-bbox="215 668 568 703">第3 基本的な取組方向</p> <p data-bbox="215 756 595 836">1 基礎的な情報の収集と提供</p> <hr data-bbox="203 1125 607 1128"/> <p data-bbox="215 1153 539 1189">2 販路の開拓・拡大</p>	<p data-bbox="647 756 2018 836">関係者が入手した各国の輸入制度や流通・消費実態についての情報を収集・分析し、関係者間で共有する。</p> <p data-bbox="647 888 2018 968">具体的には、通関制度や商慣行などの基礎的な輸出業務情報等を収集し、ホームページやセミナー等を通じて輸出関係者に幅広く提供する。</p> <p data-bbox="685 981 1621 1016">また、試験輸出等を通じ輸出業務のノウハウを把握し、提供する。</p> <hr data-bbox="607 1125 2029 1128"/> <p data-bbox="651 1153 2018 1233">国産材の販路の拡大に向けて、海外市場における市場ニーズ等の把握を十分に行いターゲットを絞り込むなど、それに対応した計画的な輸出に取り組む。</p> <p data-bbox="651 1286 2018 1366">特に、中国等の重点的に市場開拓を行うべき国や地域に応じ、国産材製品に対するニーズやウオントの形成に向けた輸出先に対するPR活動をはじめとする輸出環境の整備等を推進する。</p>

事 項	内 容
	<p>現在、その多くが試行的に行われている丸太の原木輸出については、国産材の海外市場に向けたPRや国内における輸出拡大に向けた気運の醸成等、一定の役割を果たしてきたところであるが、今後の木材輸出については、我が国の持つ優れた木材加工技術等に鑑みた場合、より付加価値の高い木材製品の輸出を志向すべきと考えるがどうか。</p> <p>売り方の工夫も必要ではないか。</p>
<p>(1) 国産材の良さを普及 宣伝し、新たな市場 を開拓する</p>	<p>環境や健康等から国産材の良さを普及宣伝し、海外において、特に富裕層を対象とした新たな市場を開拓する。</p> <p>このため、情報媒体や見本市等を通じた展示や情報媒体を活用した普及啓発などの普及宣伝活動を実施する。また、国産材製品と一目で分かるキャッチフレーズやロゴマーク、わかりやすいパンフレットを作成する。</p> <p>当面のターゲットである中国等においては、一戸建住宅の建数は極く僅かで、集合住宅やマンションが主流。このため、マンションの下地材や内装用等としての利用、販売に主眼を置くべきと考えるがどうか。</p> <p>海外において国産材がほとんど知られていない現下において、国産材の良さについて、どの点に着目し、どのように普及宣伝すれば良いか。また、現在、各地で地域材の銘柄化が行われているが、農産物の輸出のように、こうした取組を木材輸出に結びつけることが出来ないか。</p>

事 項	内 容
	<p>健康面から見た場合、身近で普及しやすいものとして、シックハウスに対応した合板などが想定されるが、他にどのようなものが想定されるか。また、環境に着目した製品として、どのようなものが想定されるか（例：子供向けの家具材など）。</p>
<p>(2) 日本の木造住宅技術の普及を図る</p>	<p>日本の軸組工法による住宅建設の普及を図る。ただし、海外では建築事情自体が大きく異なることから、海外事情やニーズの把握などの短期的な課題とともに、軸組工法の普及などの中長期的な課題があり、住宅のみならず、当面は大型建築物への国産材使用を働きかけるなどの取組を主体とした普及宣伝活動を行う。</p> <p>軸組工法を普及するにあたって、官民をあげて2×4住宅販売を促進しているカナダの取組をどのように考えるか。また、海外向けの国産材住宅として、新たな規格は想定出来るか。</p> <p>仮に、プレカット資材を輸出する場合、現地工務店との連携をどのように行えばよいか。また、海外における合弁生産等の方式について、どう考えるか。</p> <p>産官学連携による取組を進めるべきと考えるが、どのような取組が考えられるか。</p>